

「(仮称) 心のバリアフリーハンドブック」に係る小学生ヒアリング実施報告

1. 概要

対 象 者	鶴間小学校 5 年生 89 名（1 組 28 名、2 組 31 名、3 組 30 名）
開 催 日 時	2024 年 5 月 1 日（水） 5 限目（45 分間）
会 場	鶴間小学校体育館（3 クラス合同で実施）

2. ヒアリング手順

- ・ヒアリングを始める前に、「心のバリアフリー」について 10 分間説明をしました。
- ・児童に、「心のバリアフリーハンドブック」の一部抜粋分を配布し、ワークを行いました。
- ・ワークは、冊子に記載されているワーク部分を実際に解いてもらう個人ワークと、冊子の内容について意見を出してもらうグループワークを実施しました。
- ・個人ワークでは、クラスごとに 3 つのグループに分かれ、「車いす使用者」「視覚障がい者」「聴覚障がい者」をテーマにイラストを見ながら「困っていること」「自分はどうか」「自分ができるとは何か」「イラストは読みやすかったか」を回答してもらいました。
- ・その後、グループワークを行い、9～11 人のグループに分かれ、「文字や色の見やすさ」「言葉の意味の分かりやすさ」「もっと見やすいページにするにはどうすれば良いのか」について話し合ってもらいました。



3. 子ども達に配布した資料

- ・別紙参照（当日、投影します）

	1 枚目（問題提起のマンガ）	2 枚目（解決案）
車いす使用者の A さん	1) 友だちと一緒に楽しそうに電車に乗っている。 2) カフェの出入口に 2 段の段差があり、入れずに残念がっている。	・店員が簡易スロープを設置し、車いす使用の人も入れるようにした。
視覚障がい者の B さん	1) 誘導用ブロックの上をスイスイと歩いている。 2) 横断歩道で青信号になったが、渡って良いのか分からずに困っている。	・一緒に待っている人に、「青になりましたよ」と声をかけてもらっている。
聴覚障がい者の C さん	1) 問題なく電車に乗っている。 2) 電車が発発しない。 3) まわりの人がどうして降りていくのか分からない。	・ホーム上でキョロキョロしている。

4.【個人ワーク】イラストを見た子ども達の見解（抜粋）

4-1. 車いす使用者のAさん

困っていること	・カフェを楽しみにしていたのに、階段があってお店に入れない。 ・階段があって上がれない。スロープがないから上がれない。
自分はどう思ったか	・階段しかないことが問題だと思う。 ・誰でも来られるようにスロープがあればいい。 ・お店は車いすの方や足の不便な人のことを考えていない。 ・「何かお手伝いできることはありませんか？」と声をかけてあげる。 ・助けてほしい気持ちと、大丈夫かな…という気持ち。 ・スロープがないだけで、お店にはいれなくてかわいそう。
自分ができること	・お店の人に言って、スロープを用意してもらう。 ・自分にできることがあったらやって、自分ではできないことがあったらお店の人や近くの人に協力してもらう。 ・階段を変えられないから、どれが欲しいか聞いて、買ってあげる。

4-2. 視覚障がい者のBさん

困っていること	・信号が青か赤か分からなくて困っている。 ・横断歩道に点字ブロックがないから、いつ渡って良いか分からない。
自分はどう思ったか	・一緒に渡ってあげたいと思った。 ・信号に音が鳴るスピーカーを付ければ良い。 ・「青信号です」や「赤ですよ」と声をかけたい。 ・助けてあげたい、大丈夫かな、と思いました。 ・目が不自由な人は大変なんだったと思った。
自分ができること	・声をかけて「青だよ」とか「赤だよ」と教えてあげたり、一緒に渡ってあげたりする。 ・「青なので渡って良いですよ」などの言葉をかけたい。 ・「お手伝いできることはありますか？」と言う。

4-3. 聴覚障がい者のCさん

困っていること	・電車が止まって何が起きているか分からない。 ・アナウンスが聞こえていないから、皆がどうして電車を降りるのが分からない。
自分はどう思ったか	・大丈夫かな。何か分からないことがあるのかな。 ・電車のモニター（車内）に音声で言ったことを映しだせばいいと思った。 ・音声を流すだけではなく、文字でも表示すればいいのではな

	いか。 ・助けてあげたいけど、手話ができないから助けてあげられないと思った。 ・自分が「どうしたんだろう」と言っている人だったら助けたい。 ・紙などに文字を書いて教えてあげようと思いました。 ・文字を書いたり、スマホで打ったりして教えてあげる。 ・耳が聞こえないとたくさんのことが不便だから理解するのに大変だと思った。
自分ができること	・ジェスチャーや手話、スマホのアプリなどで知らせてあげる。 ・手話で話したり、文字を書いたりして伝える。 ・会話や手話はできないけど、道案内をジェスチャーでする。 ・手話はできないから、スマートフォンに文字を打って見せてあげて教える。 ・ジェスチャーや指文字をする。 ・手話や紙などに書いたり、再開まで時間、原因を教えることや声をかけ安心させること。 ・手を取り 40 分間一緒に待つ。

5.【グループワーク】文字や色の見やすさ、言葉の意味の分かりやすさなど（主な意見）

子ども達の意見	対応方法
イラストはカラーが良い。	最終的にはカラーにします。
・店員さんの言葉など、大事なところは目立たせる。 ・大事なところを強調してほしい。	本文と吹き出しのフォントを変えることでメリハリを付け、大事な部分は太字にします。
・車いすの苦勞が伝わってこない。 ・表情をもっと分かりやすくした方が良い！！	イラストの表情を今よりも「困っている」「残念がっている」ようにする。 その他のイラストも、表情豊かにする。
感情によって吹き出しの形や色を変えてはどうか。	既に吹き出しの形は3種類あり、発言者によって色の区別もしているため、今のままとします。ただし、人物の表情をもっと豊かにして、感情を伝えるようにします。
信号待ちの視覚障がい者が「ありがとう」と言っているが、何に感謝しているのか分かりにくい。	「ありがとう」を「声をかけてくれてありがとう」とします。
白杖や点字ブロックについて説明しているページのページ数を書いてほしい。	イラストの下にページ数を追記します。